

豊川小だより

9月号

「想像力は優しさ 優しさは想像力」

ホームページ
QRコード



令和7年8月29日

北区立豊川小学校

校長 中村 順子

校長 中村 順子

久しぶりの沖縄勢の優勝で幕を閉じた夏の高校野球、今年も期間中にいくつかのエピソードや名言が紹介されていました。

その中で私が印象に残ったのは、仙台育英高校の須江 航 監督の考えでした。コロナ禍明けの大会での発言「青春って、すごく密なので」がその年の流行語大賞の特別賞を受賞したことで、須江監督は一躍有名になりました。また今年も、猛暑対策による2部制導入のためにナイター実施となった大会の是非を問われて『人生最高の夜ふかし』、最高の思い出ですね」と表現するなど、前向きな発言が話題になっていました。

このように多くの名言を発している須江監督ですが、その発言の裏には、自身が高校時代にベンチ入りが叶わず背番号をもらえなかった経験から来る考えがあるといいます。

今年7月の地方大会でエース投手が緩慢なプレーを指摘され、ふてくされた態度を取った際には、ベンチに入らず裏方に回った選手への想像力をもつように、と諭したといいます。その時のことを須江監督は「想像力は優しさであり、優しさは想像力だ」と語り、「メンバーには『一緒にがんばってきた仲間の喜ぶ顔が見たい』と感じてほしい。メンバーに入れなかった部員も『このチームでやってよかったな、やりきった』と思ってほしい。」と伝えたといいます。その日を境に、仙台育英チームの結束がより強固になり、優勝した沖縄尚学との試合では延長戦で敗退したものの、監督が目指していた「幸福度の高いチーム」が実現できたとのことでした。試合後、須江監督は宿舎で「控えの選手が最大限サポートしてくれたおかげで、今がある。」と選手をねぎらったそうです。

(朝日新聞8月18日号より抜粋引用)

＊

「メンバーには『一緒にがんばってきた仲間の喜ぶ顔が見たい』と感じてほしい。『このチームでやってよかったな、やりきった』と思ってほしい。」この言葉はそう簡単に言えるものではありません。実際の環境が伴っていないければ、絵空事になってしまうことでしょう。しかし、この考えを心にもって行動するか否かで、得るものは違ってきます。本校の子供たちに、日々の教育活動、また周年の準備などを通して、相手を思いやる想像力をさらに育てながら、「豊川小でこの仲間と過ごしてよかったな。」「一緒に周年行事ができてよかったな。」「自分たちを支えてくれる多くの方々がいるんだな。」ということを感じさせていきたいと考えています。

＊

この夏休み中に周年の準備を重ねていくたびに、多くの地域の皆様が豊川小学校に心を寄せてくださっていることを、改めて強く感じました。この場を借りてお礼申し上げます。その感謝の気持ちを形にするためにも、式典まで残り70日余りの日々で、児童、教職員、保護者・地域の皆様が一つになって創立150周年事業を作り上げていくことができるよう、9月からも引き続き尽力してまいります。

6年 日光高原学園

8月8日(金)から10日(日)、2泊3日の行程で日光高原学園が実施されました。今回の宿泊学習では、実行委員会の子供たちを中心に、「みんなで協力して、思い出に残る小学校生活最後の宿泊行事にしよう!」というスローガンを決めました。



宿舎では、室長を中心に声をかけ合って動く様子や、お世話になる方々に感謝の気持ちを伝えている姿が見られ、スローガンを意識して参加できていることが分かりました。

実施にあたり、各ご家庭で持ち物の準備や健康管理にご協力いただき、ありがとうございました。

(6年担任)

★生活リズムを整えるために★

夏休み明けの生活リズムを整えるために、毎日の生活についてのチェックカードを、9月1日(月)に配付します。

1日(月)～11日(水)まで記入し、12日(木)に学校に提出していただきます。

食事や睡眠などの状態を振り返ることで、お子さんが自分で体調管理ができるように、お声掛けをお願いします。

